

記録の電子化に向けた取り組み

2026年3月9日

医療法人 大志会
介護老人保健施設アンビションうちこ園

法人の概要

法人名	医療法人 大志会
施設名	介護老人保健施設アンビションうちこ園
入所定員	80名 (2階一般療養棟40名、3階認知症療養棟40名)
併設サービス	通所リハビリテーション 定員48名 居宅介護支援事業所 グループホームうちこ園 定員9名 訪問介護事業所うちこ園
同法人事業所	矢野脳神経外科医院 (介護医療院併設) よつば訪問看護ステーション



法人理念

『まごころ』と『思いやり』を信条とし、総合的な介護サービスの提供を行う

活動の背景

10年以上前から介護記録ソフト『ワイズマン』を導入しているが、ほぼ紙の帳票や個別管理のExcel、Wordに依存しており、機能を十分に活用できていない。

情報がリアルタイムで共有されず、申し送りミスや伝達漏れが発生したり、紙→PCへの二重転記など記録業務に時間を要するなどの課題があった。

数年前にも記録の電子化を試みたが、移行方法のノウハウもなく、新型コロナウイルス感染症流行も重なり挫折した。

今回は何としても成功させたい

同時にWi-Fiの環境整備もしたい、見守り機器も入れたい……

電子化の目的

1日の記録業務にかかった時間(職員アンケート)

看護師(日勤)	2階介護士(日勤)	3階介護士(日勤)	夜勤職員(1回)
平均45.3分/日	平均22.8分/日	平均17分/日	平均78分/1回

記録を『ワイズマン』に統一することにより、

- ・ 記録時間の効率化
 - ・ 情報共有の円滑化
 - ・ 紙及びインクの消費削減
- 等々の効果を目指す

活動の計画

プロジェクトチームの立ち上げ

生産性向上キックオフ宣言

帳票洗い出し

電子化に向けた優先順位検討、整理

帳票電子化

研修会・勉強会

マニュアル整備

個別フォローアップ

Wi-Fi工事

端末導入

生産性向上委員会は活動していたが、改めてメンバーを再編
主に責任者クラスで編成するも、IT機器等に強い職員を配置





全体会議において、施設長から全職員に生産性向上に取り組む意義、記録の電子化を行う目的を伝える。

動画撮影を行いYouTube上にアップ。

・現在、使っている帳票の整理（誰が何のために使っているのか）

ID	帳票名	部門	種別	記入者	閲覧者	記入トリガー	記入の主な目的・特徴	記入内容
1	食事チェック表	看護/介護	食事	看護/介護	看護/介護	食事介助をしたとき	利用者の食事・水分の摂取状況を看護・介護間で把握するため	食事・水分量(朝・10時・昼・15時・夕)
2	排泄チェック表	看護/介護	排泄	看護/介護	看護/介護	排泄介助をしたとき	利用者の排泄状況を看護・介護間で共有 夜勤者が、ワイズマンに入力し、未排便日数データーを記入し共有するため	排尿、排便回数・尿と便の状況・トイレ誘導時間・オムツ交換時間・使用おむつ・未排便日数・便処置方法・便処置内容
3	入浴チェック表	看護	入浴	看護	看護	入浴介助をしたとき	入浴実施できたか・入浴方法の共有	入浴方法(個浴・チェア浴・特浴・清拭・拒否)
4	処置表	看護	処置	看護	看護	利用者の異常を発見した時	利用者の情報共有 同一処置対応の為	傷、内出血等の部位・日付・処置内容・使用軟膏
5	気付き用紙	看護/介護	特記	看護	看護/介護	利用者の異常を発見した時	利用者の情報共有	発見内容(日付・部位・傷・内出血・腫れ・発赤等) 部位の写真
6	看介護日誌	看護/介護	特記	看護/介護	看護/介護	日勤看護師リーダー 夜勤介護士リーダー シフト終了前	利用者の特記事項を職員が共有 申し送りにて共有	利用者人数・出勤者名・面会、カンファレンス、検査の予定・医師の指示・利用者の様子・ケア方法の開始、中止等
7	看介護記録	看護/介護	特記	看護/介護	看護/介護	日勤・夜勤ともに介護を行った後	利用者の特記事項・様子を職員が共有	利用者の日中の様子・夜間の様子、睡眠状態・家族からの連絡事項・医師指示・バイタル・ケアプラン実行内容・異常時内容

帳票の洗い出し

・ 帳票について7項目に分類、優先順位をつける

- ① 毎日入力するもので、電子化したいもの。
- ② 毎日入力ではないが、上記に近いもので、電子化したいもの。
- ③ 事案発生時に記録するもので、電子化したいもの。紙媒体で残す場合は統合を検討したいもの。
- ④ カルテのうち経過記録的なもので、電子化したいもの。内容に重複があると思われるもの。
- ⑤ 単独で電子化できるとと思われるもの。
- ⑥ 入退所時や不定期に発生するものなど記録の頻度が低く、電子化の優先度が低いと思われるもの。
- ⑦ リハビリ関係でシステムが対応していない可能性があると思われるもの。

帳票の洗い出し

①

①

①

②

②

④

④

ID	帳票名	部門	種別	記入者	閲覧者	記入トリガー	記入の主な目的・特徴	記入内容
1	食事チェック表	看護/介護	食事	看護/介護	看護/介護	食事介助をしたとき	利用者の食事・水分の摂取状況を看護・介護間で把握するため	食事・水分量(朝・10時・昼・15時・夕)
2	排泄チェック表	看護/介護	排泄	看護/介護	看護/介護	排泄介助をしたとき	利用者の排泄状況を看護・介護間で共有 夜勤者が、ワイズマンに入力し、未排便日数データーを記入し共有するため	排尿、排便回数・尿と便の状況・トイレ誘導時間・オムツ交換時間・使用おむつ・未排便日数・便処置方法・便処置内容
3	入浴チェック表	看護	入浴	看護	看護	入浴介助をしたとき	入浴実施できたか・入浴方法の共有	入浴方法(個浴・チェアー浴・特浴・清拭・拒否)
4	処置表	看護	処置	看護	看護	利用者の異常を発見した時	利用者の情報共有 同一処置対応の為	傷、内出血等の部位・日付・処置内容・使用軟膏
5	気付き用紙	看護/介護	特記	看護	看護/介護	利用者の異常を発見した時	利用者の情報共有	発見内容(日付・部位・傷・内出血・腫れ・発赤等) 部位の写真
6	看介護日誌	看護/介護	特記	看護/介護	看護/介護	日勤看護師リーダー 夜勤介護士リーダー シフト終了前	利用者の特記事項を職員が共有 申し送りにて共有	利用者人数・出勤者名・面会、カンファレンス、検査の予定・医師の指示・利用者の様子・ケア方法の開始、中止等
7	看介護記録	看護/介護	特記	看護/介護	看護/介護	日勤・夜勤ともに介護を行った後	利用者の特記事項・様子を職員が共有	利用者の日中の様子・夜間の様子、睡眠状態・家族からの連絡事項・医師指示・バイタル・ケアプラン実行内容・異常時内容

すべての帳票を短期間で電子化することは困難・・・

『看介護記録』『看介護日誌』の2つから始める。

- 『看介護記録』・・・毎日の記録で取り掛かりやすい。
- 『看介護日誌』・・・転記が多く、急を要する。

プロジェクトチームメンバーが入力方法を覚える

- ワイズマンからの操作指導
- 対象の入所者2名を入力してみる。(紙と電子と両方)
- 困った事、有効な方法など定期的に検討会を実施

チームメンバーから各職員へ

マニュアルの作成

令和7年11月

- ケア記録、ひやりはっとなど、よく使う項目の使い方をまとめる



全体研修会の実施

令和7年12月

- 職員が講師となり、参加職員に操作方法の指導



チームメンバーから各職員へ

チームメンバーが自分の担当職員へ入力方法の指導 12月22日開始

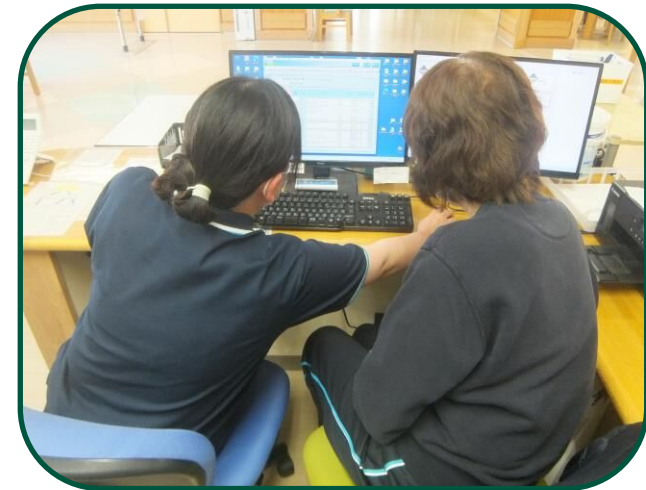
チームメンバー

職員①

職員②

職員③

空き時間を見つけ、教わりながら
個別に入力練習



ホール内でも場所によって、Wi-Fi接続が途切れてしまう・・・
端末の増設や見守り機器の増設に耐えられないような状況・・・



ネットワーク環境全体の見直し
Wi-Fi環境の改善工事、見守りカメラ設置のための工事を実施

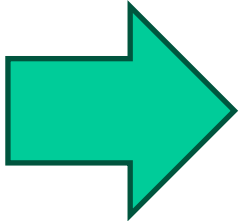
11月下旬から施設内で新型コロナウイルス感染症が流行
工期が大幅に遅れ、完成は12月26日。
移行スケジュールも大幅に遅れることに。

増設前

記録用パソコン
各階 2台 計 4台

記録用タブレット
各階 1台 計 2台

ワイズマンケア記録システム
4システム



増設後

記録用パソコン
各階 2台追加、医師1台 計9台

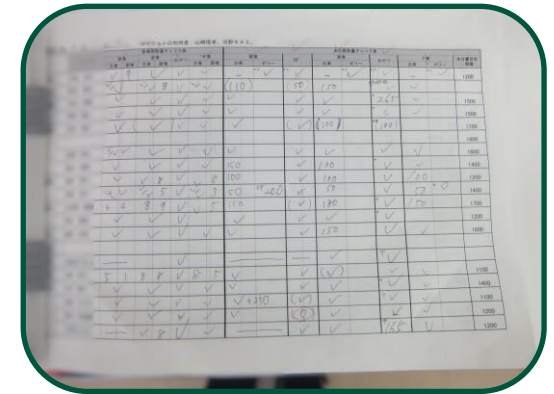
記録用タブレット
各階 1台追加 計4台

ワイズマンケア記録システム
5システム追加し 9システムに増加



電子化を行った手書き帳票

看介護経過記録	現在各階の全利用者を紙と電子の同時記録中
看介護日誌	紙の日誌は廃止 システム入力
食事チェック表	直接タブレットへ入力するには不便さがあり 現在ノートパソコンにて一括入力に変更
排泄チェック表	現在は紙に記録し、システムに転記。 タブレット増設すれば直接入力予定
入浴チェック表	廃止 直接システムに入力
気付き用紙	紙の用紙は廃止 タブレットにて入力
体重記録表	廃止 直接システムに入力
褥瘡経過記録	廃止 直接システムに入力



活動の振り返り

うまくいった点

- 『看介護記録』『日誌』の2点の移行から始まったが、『体重記録表』等他の帳票への移行も行えた。
- 苦手な職員からも全体研修会で質問がでるなど、意欲的な姿が見られた。

うまくいかなかった点

- 感染症流行により移行スケジュールが大幅遅れ。未だに完全移行に至っていない。
- システム上、移行しにくい、移行できないものがある。『食事チェック表』『食事箋』など。

職員の声

簡単に入力する事ができるようになった。

情報収集ができやすくなった。

タブレットによるフリック入力などの工夫で、PC が苦手な職員にも取り組みやすくしたのがよかった。

施設独自のカスタマイズで入力しやすくなった項目もあるが、使いづらい項目もある。

転記ミスが減った。

どこに何を入力しているのか、慣れるまでは難しかった。

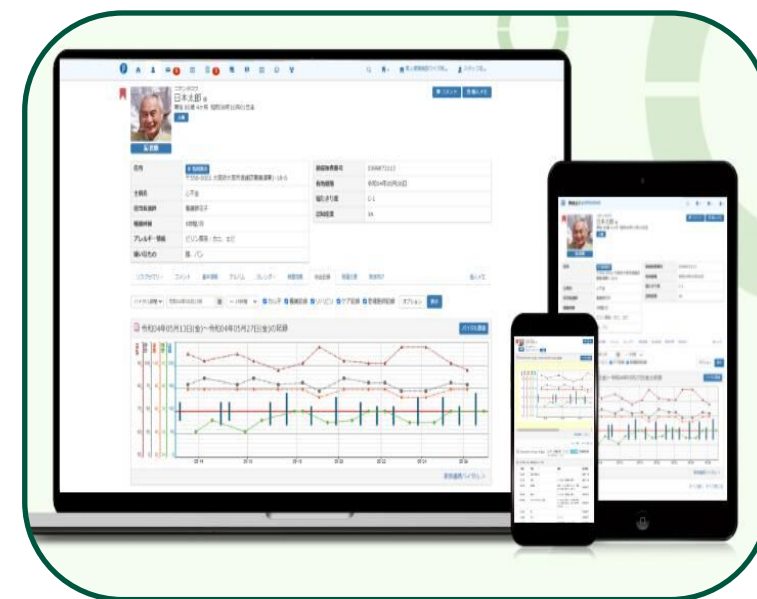
今よりももっと簡単に入力できるようになれば良い。

紙ベースの書類が減り、コピー回数が減ったものがある。

今後の課題、方向性

事業所内の連携強化

ワイズマンの情報共有システムを活用
報告事項や各委員会の議事録等をシステム上
で伝達
療養棟に行かなくても利用者様の状態が確認
できる



最後に

伴走支援により、手順や道筋を示して頂いた事により、数年前に頓挫した電子化、ペーパーレス化に向けた取組を進める事ができました。

現在は、移行真っ只中であるため、業務に慣れるまで、職員の負担感はやや増えている状況です。

改めて職員の負担感や介護記録の時間について職員アンケートを実施したいと思っています。

同時進行している見守り機器の設置と運用の効果も合わせ、利用者にとって安全な環境整備と、職員の働きやすい環境整備をすすめていきたいと思っています。